アクタス クリニック ◎伝染病と予防接種

副反応より怖い合併症

今月のドクター 渡部礼二

今年3月から夏前まで麻疹が羽咋を中心として石川県で流行しました。麻疹は伝染力が強く、発病すると高熱が約1週間続き、鼻汁やせきも激しく出ます。多くの場合、気管支炎を合併しています。

接種率低下が流行原因

麻疹にかかると1000人から2000人に1人の割合で亡くなります。日本では昨年、麻疹が元で88人が亡くなっています。そのほとんどは1歳前後の子どもです。

これほどに麻疹が流行した最大の原因は、予防接種率の低下にあると見られています。麻疹は重症になりやすいのですが、一方ワクチンを接種することで予防できる伝染病でもあります。麻疹を発病した95%の子どもは予防接種を受けていませんでした。

今春からおたふく風邪（流行性耳下腺炎、ムンプス）が幼稚園、保育所単位で大流行しています。おたふく風邪は、耳下腺の腫れだけで終わる場合も多いのですが、時に髄膜炎や難聴を併発することもあります。大人になってからかかると、睾丸炎や卵巣炎を合併することがあります。

予防接種には副反応があります。何十万～何百万人に1人ぐらいの割合で、重大な副反応が見られることもあります。しかし、ワクチンをしないで病気にかかったときの合併症の頻度と比べると雲泥の差があります。

ワクチンを接種するよりも、本物にかかったほうがよいという誤った考え方をしておられる人を見受けますが、決してそういうことはありません。

1999（平成11）年の感染症の統計ではインフルエンザで1382人、百日ぜきで2人、麻疹で7人（成人麻疹はこれ以外に2人）、破傷風で10人、水痘で12人が亡くなっています。

ジフテリア、日本脳炎、ポリオでの死亡者はいません。

死に至る感染症も

ジフテリアはロシアでソ連崩壊後に流行していました。日本脳炎ウイルスは沖縄から青森までの地域で毎年検出されています。ポリオは1960（昭和35）年に北海道から始まった流行が生ワクチンの緊急輸入によって鎮圧されたことを覚えている方もおられるでしょう。アフリカ、東地中海地方、東・南アジアでは、数が減ったとはいえ、ポリオが報告されています。これらは油断をするといつ日本でも流行するか分かりません。

予防接種の目的は3つあります。

1　日本脳炎、ポリオ、破傷風など致死的な、あるいは重い後遺症を残す恐れのある感染症の予防

2　百日ぜき、麻疹、結核、インフルエンザのように感染しやすく、重くなる傾向もあり、現在の医療環境でもまれに死にいたることもある感染症の予防

3　風疹、おたふく風邪、水痘、肝炎など、過半数は重症になることもなく経過するが、まれに深刻な合併症を引き起こすことがある感染症の予防

つまり、すべての予防接種は、致命的な病気の感染予防と合併症を避けるためにあるのです。

社会防衛の意味も

予防接種は個人を病気から守る意味のほかに、社会全体を病気から守る意味もあります。日本では後者の社会防衛としての予防接種の意味をあいまいにしています。しかし米国では、留学生の受け入れや社会活動への参加の条件として、規定の予防接種を受けていることを要求する州が多くあります。

母子手帳を見て予防接種が抜けている場合、保健所や小児科医に相談して予防接種の予定を組んでもらうことをおすすめします。

わたなべ・れいじ
わたなべ小児科医院長
金沢市泉本町5－5－1、53歳